

関係町内の皆様へ

平成 21 年 3 月 吉日
東大社御神幸祭典委員会

東大社第五十四回式年大神幸祭について（お知らせ）

この祭りは、西暦 1102 年（今から 900 余年前）海上郡高見浦（現在の高神を中心とした銚子地方一帯の海）に突如、地震や大津波が発生ししばらくの間続いた。その結果、生命や家財を失うなど被害は甚大かつ多数にわたった。

そこで、当時 73 代堀川天皇の命により、この年の 4 月 8 日に、東大社（東庄町宮本）が海神の怒りを鎮めるため、はじめて、高見浦へ御神幸になり祭祀（神や祖先を祭ること）を営んだ。

その後、海上は初めて波浪は静まり、天候は回復し、これより先は大漁・豊作が続いて、民は豊かに里は栄え人々は神に感謝した。

天下に名高い銚子大神幸祭の起源はここからはじまった。

その後、第三回目から雷神社（旧海上町見広）豊玉姫神社（旧小見川町貝塚）も加わり毎年高見の磯に神幸（神がお出かけになること）があったが、1110 年の十回目からは、20 年に一度と改め今日に至っている。

今回は平成 22 年 4 月 10～12 日に、外川では 11 日（日）に行われます。

中心になるのは、神幸祭の趣旨から言っても、銚子漁業の発祥の地外川漁港での、お浜降り・お潮汲みの祭典、歴史と伝統文化に基づく荘厳華麗な神輿パレード、伝統に輝く郷土芸能、諸行列等ではないかと思われます。

当日は天候にも恵まれ、盛大に、かつ、意義ある祭典になることを祈念しております。

皆様方のご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。

※ 別名 オウジン様の名で親しまれているこの祭典、以前は一生のうち、三回見られれば幸せであると云われてきました。

※ 参考資料

- ・ 銚子市史
- ・ 東大社の諸資料
- ・ 「第五十三回式年三社 銚子大神幸祭」 大衆日報社

※ 式年（祭りをを行うことに定められている年）